

西 関  
労 災 ・ 職 業 病

第 1 巻  
73.10.15

闘う労働者  
闘う労働者  
闘う労働者

西 関 働 者  
安 セ ン ク

秘 閣 紙 発 刊 に あ た っ て

編 集 部

現在、関西におきましては、三豊工業、国鉄新幹線保線所、ゼネラル、全港海をはじめとする戦斗的労働組合の闘い、京滋じん肺同盟、頸肩腕症候群を闘う会などの被害者の闘い、尻無川工事殉難者遺族会をはじめとする遺族の闘い、さらにこれらの闘いを支援・共闘する医療従事者、専門技術者、学生の闘いなど数多くの闘いが展開されている。

昨年十一月、高槻市において開催された「労災・職業病を闘う活動家関西集会」を契機に、これら個別の闘いを地域の闘いへ、地域の闘いを全関西的な闘いへと、共闘を拡大する努力が活動家の方々によって精力的にくりひろげられてきました。そして、北摂、阪神、南大阪など地域でセンター設立をすすめるとともに、九月二十二日の京大集会において、私たちは「関西労働者安全センター」を全関西のセンターとして設立を確認しました。

労働災害・職業病の激化とともに、これへの闘いも又、単産のいかんを問わず一般化しています。しかし、闘いの一一般化につれて、闘いを「健康を守る運動」「補償要求の闘いに限る」などの災害の発生源を無視した、鬼門扱いにする右寄りの誤りも又、表

面化しています。

「関西労災・職業病」はこれらの偏向を排し、各職場、各地域での闘いを交流し、一つの階級的な闘いの潮流をつくりあげることを目的として発行するものです。

全関西、全国の労働者、活動家、専門技術者、学生の方々から御協力を心からお願ひします。

第二回 労 災 ・ 職 業 病 を 闘 う

活動家関西集会

日 時 十一月十八日(日) 午前十時～午後六時  
場 所 京都大学 法経第一教室(総会)  
土木総合会館ほか(分科会)

参加費 五百円(パンフレット料を含む)

分科会の内容

第一分科会 労働運動としての労災・職業病斗争

第二分科会 公害斗争と労働運動

第三分科会 研究者・技術者・学生と労災・職業病斗争

主催 関西労働者安全センター

大阪北摂地評労災職業病対策会議

共催 全三豊工業労組・国労新幹線大阪保線所分会・尻無川工事殉難者遺族会・尼崎労働者健康協議会ほか

↓ 労災職業病を闘う活動家関西ブロック

高槻市北紫町2-1 全専売労組内

北摂労災職業病対策委員会 豊田正義

尼崎市瓦宮裏一四一三 阪神医生活内

労働者健康協議会発行

藤井新造

## 関西労働者安全センター 結成さる

九月二二日、京都大学で開かれた「安全センターをめざす反公害・労災・職業病斗争討論集会」において、私たちはこの間準備していた関西労働者安全センターの設立を正式に確認しました。

帝国主義の時代といわれる現代とは、労働者にとってどういう時代なのでしようか。

一口に言えば、毎日、毎日「頭にくる」「腹だたしい」「イライラする」ことの連続が現在と言つてよいと思ひます。慢性的な公害・買占め・物価上昇等により、この私たちをとりまく生活と労働のすべての基盤がくずれていくことへの怒りか、一つには労働災害・職業病への階級的な闘いとして、今、野火のごとく全国の職場に、地域に広がっています。

明治から昭和へとつづく日本の資本主義の時代にはなかった全面的な労働者収奪のやり方。労働者のつくりだす富を資本家は奪いさるだけでなく、労働者の肉体や精神をも蝕ばみ、その血肉を蚕食するという末期的な収奪のやり方こそが、現体制の赤裸々な姿なのです。この事実こそは、現代の支配階級が歴史的にもいかに腐敗しきり、いきつく所までいった、正に世紀末のアガキにあることを示しています。

支配者は自からの腐敗・墮落を労働者、人民に気づかれまいとして、自分たちの手の中にあるマスコミを含めたすべての機構を総動員して、必死の努力を続けています。

大学制度もその重要な一つです。「科学の中立性」を装っては

いますが、現在の科学は確実に支配体制の矛盾をかくし、労働者人民の斗争を混乱させ、闘いを自らの手中に収めるため最大限に運用されていることは、水俣病や三池災害斗争をあげるまでもなく、私たちは、日常の闘いの中でイヤというほど体験しています。しかし、このような中であつて、先進的な研究者、学生は闘う労働者、人民に学び、自からの学問総体を変革しようとしています。

医療制度や法制度、その他あらゆる分野にも同様の傾向がみられ、先進的な医療従事者、弁護士をはじめ、あらゆる分野の専門技術者、研究者、労働者の間にも、同様に闘う労働者、人民と連帯して、自からの解放をはかろうとする気運がおこっています。

関西労働者安全センターは、以上の情勢を正しくふまえ、労働者の解放をめざし、労災・職業病を闘う労働者、活動家が中心となり、地域住民の反公害斗争と連帯し、先進的な専門技術者、研究者、学生とともに松成したのです。

センターの任務は何よりも、労働災害・職業病の根源を除去する労働者の闘いを支援し、共闘することを第一義とします。そしてさらに、職場での環境調査、災害認定、被災者の生活補償など労働者の要求に応えきろうとするものです。

命を守る闘いの柱としてのセンターの拡大強化のため、同志の皆さんの結集と支援・共闘を心からお願ひします。

### 関西労働者安全センター (仮連絡先)

高槻市紫町二一 全専売労組内

北摂労災職業病対策委 豊田正義

京都市左京区吉田 京大工学部機械工学科

京大安全センター実行委 松久 実

TEL. 〇七五―七五―一一二―一一四五―一九三

## 労災・職業病を闘う

— シリーズ —

461

機関紙「関西労災・職業病」には今後関西ブロックに結集する団体の紹介をしたいと思います。今回は、南大阪、北摂、尼崎の地域でセンターの設立をすすめている団体を紹介します。

編 集 部

### 全港湾沿岸南支部

#### 安全衛生委員会

林 通 夫

#### 労災の多発する港湾産業

現在、合理化の進行にともない、われわれの港湾産業は労働災害発生率は建設業に次ぎ第二位にランクされている。すなわち、われわれの港湾産業は、現在社会問題化している交通事故件数をはるかに上廻っている災害多発産業である。

しかるに、労働組合が労働災害・職業病撲滅闘争の取組みがたちおくれ、賃上げ闘争は斗えても労災・職業病に対する闘いについては第二義的であった。そのような状況の中で、職場では相次

いで労働災害が発生し、そのたびに被災労働者の「不馴れ」や「不注意」論でかたづけられ、処理されてきたのであった。

#### われわれの労災、職業病闘争

わが沿岸南支部は、相次ぐ被災労働者の救済手段として、支部共済制度のなかに「経営者団体の拠出金」による見舞金制度を確立した。十日以上の休業者に対し見舞金を贈り生活保障の一部にあて、その後、公傷者については貸金相当額一〇〇万の完全保障制度をかちとった。一九七〇年に入って、大阪地評を中心に発足させた「労働安全衛生大学」に専門的に学習させる活動家を聴講生としておくり、本格的に安全衛生と労災・職業病について取組む事を決断して、是論学習を実践活動に活用し、今日に及んでいる。

いうまでもなく、港湾産業はすべての物質が流通する輸送過程の中で、あらゆる製品を取扱い、あらゆる災害に見舞われている状態にある。垂材や原木による死亡、又は重傷災害から、本船内でのバラもの扱いのため、じん肺、化学薬品による中毒、一万トン級以上の船底で起る酸欠乏症等々、限りなく生命を失い、職業病がまん延している。また、多くの労働者は腫瘍症状を訴えている。

このような状況を一時も放置できないことを確認した安全衛生委員会はまず、各職場に独自の安全衛生委員会を設置させた。そして、支部委員会と結合する中で学習会を詰め、組合独自のバトルを発足し、くまなく職場の点検活動を行ない、企業的安全対策について欠陥点をチェックした。人べらし合理化による作業要員の不足、作業基準の無視を明らかにし、組合員の安全衛生に

ついでに意見聴取等を行った。また、欠陥クレームを摘発するなど、労働省を通じて改善命令を出させ、作業基準値に達していない事柄場については警告書を発して、放任してきた安全基準行政に抗議した。これらの活動により、われわれは企業と行政に対し大きくゆさぶりをかけ、一定の成果を収めた。

だが、このような安全衛生委員会の日常努力にもかかわらず、七三年に入って死亡災害が相次ぎ、三月から六月にいたる二四ヶ月間で六名の死亡者を出し、委員会はお手あげの状態となり、港湾産業の危険性をいたく体験させられたのである。

安全委員会と執行部は、とどまることのない相次ぐ死亡事故撲滅対策として、遂に六月四日、全職場に二時間の時間ストを指令した。「合理化反対・労働災害退放集会」を決定し、企業に向けては抗議文を突きつけ、組合員に対しては労働災害の重大性を説いた。こうして、日増しに繰返した死亡事故はかろうじてピタリと止ったのである。

われわれの職場では、以上のごとき死亡、負傷災害とともに、じん肺、腰痛等の職場病職場がある。腰痛症については、港湾労働者の職業病として政府に認定を迫るために、目下、全労働者が腰痛の検診中である。

### 今後の活動 — 地域で安全センターを

昨年十一月開催された高槻市での「関西労働災害・職業病と闘う活動家集会」に参加して以来、われわれは結集された、あらゆる労働・職業病と闘っている活動家および専門家集団、京都大学を中心とする各大学の学生の諸君と連帯し、これらの支援を受けながら着実に斗争を実践している。わけても、京大災害研の同志

による公害物質の分析協力については敬意を表する。

最後に、われわれは全国金属と共に、現在南大阪において「南大阪安全センター」設立に向けて準備段階であることを報告する。

全港湾沿岸南支部、安全衛生委員会

大阪市大正区新千歳町七〇

加藤海運内 林通夫 氣付

### 大阪北摂地区評労働職業病

対策会議 豊田正義

#### 北摂労働職業病対策委の結成

北摂地区評労働職業病対策会議（事務局長、森谷定一、全専売労働）は、今から十年前の三池炭鉱三川坑で、三井独占の保安サホによってひき起こされた炭じん大爆発事故（死者四五八名、〇〇患者八三三名）の翌年、総評高槻地協労働職業病対策会議として発足しました。

対策会議は、全国金属労組、化学同盟の共同提案によって設立されたのですが、三池大災害の地域労働者に及ぼした影響力を決して無視することはできません、というより、三池労組の反合理化、命を守る闘いに励まされて地域の労働者活動家、医療関係者の地道な努力によって結成にこぎつけたものです。

#### これまでの活動

当時、北摂地域では、日本触媒化学労組のニトリル中毒斗争、松下電器労組のけんしろう炎斗争などが闘われておりましたが、活動家たちは、「今日は人の身、明日はわが身」と三池斗争をとらまえ、自らの職場での労働災害・職業病への闘いを進めました。

とくに、対策会議発足直後に発生した三人に一人がじん肺結核におかされていた宇山カーボン労組のじん肺斗争は三年間にわたって工場を占拠して闘いぬかれました。この闘いのもつ意義は何よりも、三池出身労働者が叫んだ言葉「都会の中の炭鉱―宇山カーボン」のとおり、「全国の職場の三池化」―労働災害、職業病が帝國主義体制下ではすべての職場をおおい、激化する必然性を予見した闘いとして、以後の対策会議の闘いの路線を確立する上で重大なる教訓をあたえました。

その他、有機溶剤中毒、腰痛、職業性痛、母体保護らの闘いがありますが、傘下労組の現在の闘いとしては、全国の保線労働者に巨大な影響をあたえつつある国鉄労組大阪新幹線支部保線所分会のじん肺、職業性難聴、労働災害への闘いがあります。

### 大阪北摂地区評労災職業病対策委

高槻市梁町二―一 全専売労組内 TEL. 0726-96-7754

## 尼崎労働者健康協議会

労働協の結成

藤井新造

この七月で尼崎の公害認定患者数は三、〇〇〇名を突破して、四日市、川崎、西淀川など公害病救済指定地域のなかで最大の人員になっている。阪神医療生協は四年前に、尼崎の大気汚染、とりわけ亜硫酸ガス濃度だけとってみても全国一の汚染度であることを住民によるアンケート調査で指摘してきた。

それが事実として起ってきた訳であるが、公害都市川崎で、住民の健康破壊が進行しているなかで、職場労働者の健康が、そこから推定しても安全であろう筈がない。特に他都市に比較して、中小零細企業（大手鉄鋼を除いて）が多く、それに相応して中

下層労働者の数が莫大であり、その労働者群のなかでの労災・職業病の多発もまた、数字上、立証されている。他都市に比較して二重の危機（公害と労災・職業病）のなかで毎日労働を強いられているのが、尼崎の労働者階級の実態である。

この尼崎の地で、公害と闘うことの必然性と同じく、職場で発生する労災・職業病に具体的に取組むことが職場労働者から要請されたのが三年前である。

### 労働協の活動

すでにこの段階で、労災・職業病斗争の分野で先進的な役割を果たしていた北摂地区評労災職業病対策会議の活動から、我々は数多くの教示を得ることができた。そして、当初阪神医療生協と職場とのかかわりの中で、全国金属三支部と、一單組計三〇〇名の健康実態調査を行なった。この調査項目のなかで「職業と病気」「労働環境と病気」の関連性の追求ができるよう、粉塵、騒音、高熱、有害物使用など作業環境の項目を設定して、これらの影響を調べてみた。

アンケート調査の結果を全職場の労働者に報告するため、各職場での特徴的な疾病をさぐり、共通する疾病を比較して、機械金属産業における一般的な疾病をひろいあげた。

そして、職場での医療懇談会、特殊健康診断を行ない、疾病の原因をみつめること―医療従事者と職場労働者との協同作業として職場での健康管理を実践し、病気が個人の問題として処理されるのではなく、社会的疾病として（職業病、公害被害、ノイローゼ）とらえかえされることの重要性を訴えた。

このように、労働協は健康アンケート調査、健康診断、尼崎での労災・職業病を闘う交流集会（現在まで4回）、機関紙の発行

定例会議の開催を恒常的に続行している。と言っても、全部が全部うまくいっている訳でもない。しかし、特に八職場で発生する一人の仲間「疾病の痛み」こそ多くの仲間の健康を守る最初の警であるV又、A労災・職業病の救済の教師は現場労働者であり、その発見は労働者の直感であるVを基本として、我々は運動を進めている。

### 労健協の今後

今、尼崎では「日本列島改造」のもとに、企業規模が小企業化しているなかで（尼崎の工場数は増加しているが、労働者は増加していない）大企業は負金にものを言わせ、公害都市から逃げ出し、中小零細企業の労働者を再生産している。

人口も公害都市のイメージが広がるにつれ停滞している。どの都市よりも生活がしやすいとの尼崎の都市の特徴も、公害都市の代名詞になるほど、環境汚染が進行している今日、すでに生活環境としては全国一最悪の都市となってしまった。

このなかで日々労働している階層の悲惨な健康破壊の実態の告発、健康破壊に対する労働者の闘いへの支援、共闘、この基本的方向のもとに、我々はさらに個々の職場労働者、組織との連帯をねばり強く求めていかねばならないと思っている。

### 尼崎労働者協議会(連)

尼崎市瓦宮字宮裏

一四一三

阪神衛生協内

TEL (〇六)

四九二一〇二五〇

### 第二回労災・職業病を闘う

#### 活動家関西集会に結集を

第二回集会に向けて、この間二回の実行委員会、数回の事務局会議がもうけられております。実行委員会は、昨年の第一回集会を総括して、分科会における討論の時間を今年は十分とするよう配慮する事を確認しました。

第一分科会は、いかにして労働者階級として労災・職業病を闘うかを中心テーマとしました。なお、労災・職業病を一括して一つの分科会で扱うか、課題的に分けて扱うかについては、実行委の中でかなり論議となりましたが、今集会では一括して第一分科会に入れ、課題別については今後、第三回集会に分けて追及することになりましたので、御承下下さい。

第二分科会では、現在地域住民により果敢に闘われている反公害・闘争に労働者としてどのように関わるかをテーマとしました。

また、第三分科会では、この指すすんでいる関西労働者安全センターの運動を中心に、専門の技術者・研究者、学生が自からの運動をふまえる中で、いかに労災・職業病闘争に関わるべきかを中心テーマとしました。

なお、現在第二回集会に向け、各地の闘争をのせたパンフレットを作製中ですので、皆さんの御協力をお願いします。

最後に、労災・職業病と日々、闘っておられる全国の労働者、活動家、専門家、学生の皆さんに、十一月十八日、京大での第二回集会に結集され、共に闘われんことを訴えます。

# 労働と病氣

№ 1.

## 1 頸肩腕障害

### (1) はじめに

頸肩腕障害（症候群）という病名で職業病認定を勝ちとるまでは、実に多くの被害者と自殺者そして苦しい闘いのつみかさねを必要としてきた。私達が、この闘いを始めるに当り、この血のにじむような、婦人労働者の闘いとそれを援助してきた医師・弁護士・工学関係の蓄積の中で活動していることをわすれてならない。又、依然として民間企業、下請零細企業の組立・電話交換手・事務労働者・仕上げ労働者（とりわけ婦人労働者）の中にこの健康破壊が進行しつつあること、そして腰の目に当たらぬことをわすれてはならない。

### (2) 頸肩腕障害とは何か

頸肩腕障害が発生し、注目されるようになったのは、昭和三十年頃の電算機導入の頃であり、昔は、タイピスト、ピアニストの職業病としてあり、又昔から上肢を反復して使用する労働者に、「使い痛み」として訴えられてきた労働起因性の病氣である。それ故、昔は、男女を問わず発生した病氣であるが、電算化コンピュータ化の導入と労働形態の変化、事務労働の合理化、部品組立の独立化の中で、婦人労働者がこの特殊な労働形態の中に

組み入れられ、大規模な発生をみせてきた。

上肢の反復する労働による筋肉疲労及びその続発症状がそれであるか、「肩こり、背痛、上肢痛、手指けいれん、痛み、ふるえしびれ」に加えて、精神症状（主として自律神経症状）をとまなう。

医学的にはいくつかの重症分類はなされているが、労働によって伴う、これらの症状の因果関係をもって現在、病名化されている。

これらの被害の内、特に神経症状の発現は、長い間、「なまけ病」「ノイローゼ」として迫害をうけ、実に多くの婦人労働者は職業病として公認されず、苦悩のどん底に追いやられてきた。

現在のように行政・学会・労働運動の中で公認されているこの職業病も、いったん現場にいくと、白眼視され、迫害され、私腹物あつかいされ、差別されているのは、それなりの根拠がある。婦人労働者に対する差別的労働と、精神症状の差別は（特に精神障害者への差別意識）かその階級的根源でもある。

### (3) 頸肩腕斗争

頸肩腕斗争は、婦人労働者の自殺から始っている。全国チェーンストア労働者、電通労働者、銀行労働者からその連動が発表し、実に苦しい闘いの口から、労働者自身も認めざるを得ない局面に采っている。

逆に、現在、労働省とその御用技術者をして一定の認定基準を作り出そうとしている。

「日本産業衛生学会頸肩腕症候群委員会」の設置（照四六）であるが、この深刻な事態を意味している。

現在、私達の中で頸肩腕障害と闘う準備がなされているがその中で、電達のように、電算部門を放棄してその上で、治療のみで解決しようとする公社側の動き、M企業のように大企業では、ナベレータの合理化をもって発生する被害に、配転でもってのり切るうとする企業の動き、I企業のように、事務部門の一部にくみこみ特殊な頸肩腕を潜在化しようとする動き、O官公庁の如く、発生に知し下請化しようとする動きなどがある。

頸肩腕斗争の中で、最高到達地平は、東京の賃生堂斗争であるう。ここでは、診断書のみで業務上としてとりあつかわれるまゝになつてゐる。

しかし、私達はこの見おとしてはいけないのは、多くの未遂症患者を認定さすというだけではなく、職場労働条件の改善、そして、日本帝國主義の強収奪・強搾取の生みだす、電算化という労働内容に本質的に打破る排外主義・帝國主義労働運動にかわるべくたくましい闘いを開始しなければ、次々にその被害が多発することを見ねばならない。

資料紹介  
国鉄新幹線における  
職業病との闘い  
1973・8 第1号  
京大安全センター実行委  
関西労働者安全センター(準)  
関西労働者安全センター  
の結成を  
研究部医学部  
大京大  
んん肺

又、この被害が下請化されるに従い、一見、この職業病は統計上消えたといわれる時期が来るかもしれないが、中小零細下請企業で一般、多発・重症化してゆくことをわすれてはならない。

山下五郎 (足跡労働協)

おしらせ

「第二回労災 職業病を闘う活動家関西集会」へ向けての第三回実行委員会

日時 十月十六日(火)午後六時半より

場所 高槻市民会館

議題 第二回集会の基調について、ほか

連絡は豊田正義まで

「頸肩腕症候群と闘う会」(準) 第四回打合せ会

日時・場所未定

連絡は足跡労働協・山下まで(電06-四九二一〇二五〇)

京大安全センター定例会議

日時 毎月第一、第三水曜日、午後六時より

場所 榎根自主研

連絡は松久まで(電075-七五一一二一一内五一九三)

※今後、集金、研究会などの案内をこの欄にのせますので、皆さん利用下さい。

八編 集後記 V

昨年の一回関西ブロックの集会より、はや一年経とうとしています。この間、ようやく関西労働者安全センターも設立され、われわれ関西ブロックおよび安全センターの機関紙として、この「関西労災・職業病」を発行しようということになりました。

一号には、第二回集会へ向けての記事、地域でセンター設立をめざしておられる三団体の紹介、関西労働者安全センターの結成などをのせました。

今後なるべく月一回、定期発行し、将来は新聞にしたいと思っております。なに分、まだヨチヨチ歩きですので今後ともよろしくお願ひします 編集部 高橋正博